

エコツアーカフェKOUZU

神津島

を知ろう!!

お話:梅田勝海さん

お気軽にご参加ください。事前申し込み不要、参加自由です。

「エコツアーカフェ」は、地域や、地域の未来などに
関心をもつ人が気軽に集まり、おしゃべりをする場です。

日時 1月9日(木)

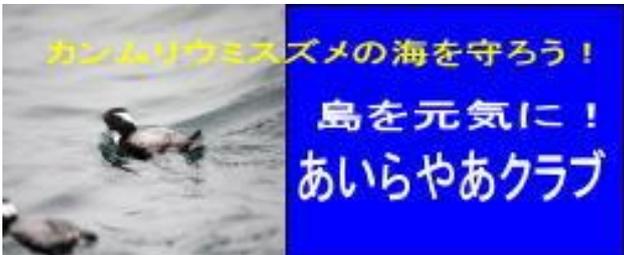
午後7:30~午後9:00

会場 開発センター

主催 神津島村商工会 (Tel8-0232)

猿田彦大神と道祖神

島内の石仙群と信仰



についで

島内の石仏群と信仰

島の中を歩いていて目を引くのが。山畑への道筋または磯の脇など、路傍に祀られている石仏群です。

なぜ此処にと思わされるような場所に祀られている石仏は、そこで祀られる理由があるからだろうと、思いながら頭を下げて通ります。

一、 濤響寺鬼坂の石仏、濤響寺の正面の鬼坂の手前、左側の台地に明治四十年七月八日の夜七日七晩降り続いた雨の挙句、奥種山からの鉄砲水で遭難死者十六人の名を刻んだ遭難碑の脇のたみの木の根元に、数体の地藏菩薩の石仏が置かれています。これは今まである家の墓地で、墓石として祀られていたが、新しく墓石を建てるため不要になった、地藏の石仏の置場に困り止む無く此処に置いたものと言います。

二、 寺山はばたの石仏、此処には札所めぐりの記念碑や、猿田彦大神の文字碑が祀られています。寺山はばたの石仏、此処には札所めぐりの記念碑や、猿田彦大神の文字碑が祀られています。但し、此処の左右に一体づつ地藏菩薩と思われる石仏が見られます。

三、 菊若の石仏、村の開発総合センターの、テニス、コート上の道路脇に、二体の石仏が石室に収められています。由来等は判りませんが、地藏菩薩のようです。この石仏は以前道路が出来ていない頃、地藏の石室の向かい側の旧道の奥に祀られていたのですが、道路新設で

此処に 移されたものです。

四、 横道の石仏、村落を一望できる横道の岩壁を削り、三ヶ所に石仏が祀られています。石室の石仏は地藏菩薩で、これは亀突き折遭難した人を祀ると言います。コンクリート作りの祠には地藏菩薩が三体祀られ、其の内の一には女性と思われる戒名が刻まれています。山か磯で事故にあったものでしょうか。

廿三夜得大勢至菩薩の小型の碑も、此処に立てられています。

五、 金毘の石仏、金毘の保育園脇に石仏を祀る祠があり、そこには数体の地藏菩薩の石仏と思われる石仏と、地藏と思われない石佛が祀られています。言い伝えも途切れているようです。

六、 治平沢の石仏、以前この石仏は少し先の左手の土手の上に並べて祀られていたが、この沢は雨が降ると砂地の沢は深く掘られて通行が出来ず、その度に道普請が行われました。また、母親の畑での手伝いでサツマイモを袋に入れ、背負子(しよいこと呼びました)に縛り付け此処まで来ると、この土手に司宵子を降ろして一休みする所したが、道路改良で土手が無くなり、祀られていた石仏も此処に移されています。此処には九体の地藏菩薩と六字の名号を刻んだ供養塔も建てられています。

七、 焼山の供養塔、 半坂を登り切った 道路右側に六字の名号塔が建てられています。此

処も山や畑で憑き物に憑かれたがこの名号塔の前で憑き物は離れて行ったと伝えてい充所です。

八、 沢尻の名号塔、寒崎トンネルの手前の道路左側に立てられています。これも憑き物けだと言われています。またこれらの名号塔は村の入り口手前に立てられていて、憑物が村の中に入らないようにしていると話を聞きました。

九、 こぼうの地蔵、沢尻の温泉センターへの道路から老人ホームを右に見ながら右に入り、そのまま登ると、両側を切り通した所から長浜への都道に出ます、その切り割の左側にコンクリートの祠に、二体の地蔵が祀られています、この二体の地蔵も憑き物除けと言われています。

十、 小浜の地蔵 長浜の手前の眼鏡岩（眼鏡岩（ぶつとおし）の道脇右に、ブロックの祠で祀られている地蔵菩薩は、昔飢饉の時に磯物を採っていた、若嫁が事故死したのを悼んで此処に祀ったと言います。

十一、名組の石仏 絶壁の下の洞穴の中に、風化した石仏二体が祀られています、どう言う佛か不明です。

十二、 船戸ヶ沢の地蔵、以前この地蔵菩薩は船戸ヶ沢の崖の中腹に祀られていましたが、都道が出来た時道路の左側に移されました、海で遭難した人への供養のためと聞きました。

十三、 中宮塚の石仏、 那智から奥山への旧道を通り、ツツキの観音堂までの間に、数体の地蔵が祀られています、漁で身内や乗り組みを失なった船首が建てたもの、磯で波に払われた姉を救おうとして姉妹二人が犠牲になった供養のもの、塚様と呼び塚の基礎の下から経文石が出土した徳本塚がありました、また小夜の中山の地蔵と呼ぶ石仏もありました。

一四 おれっちの地蔵、天上山林道の終点のおれっちから観音浦へ辿る道筋にあり、飢饉の時倒れた人々を悼んで祀ったと伝えていきます。

一五 森田の地蔵菩薩、 昔は天上山への登山道は、鉄砲場からそのままに登り畑の畔の三〇センチほどの道筋や、畑作りの為石積をした所などを通り、森田の牛止め掘り二出ますが、此処にも大型の地蔵が祀られています。

猿田彦大神と道祖神

道祖神は、道路の悪霊を祓い道行く人を守る神で、巷の神(ちまたのかみ)賽の神(さえの神)道陸神(どろくじん)とも呼ばれ、村の入り口や道路の三叉路に分岐する所に祀られ、村の中に悪霊や悪疫が入り込まないように護る神です。

また猿田彦大神は、神話の時代に瓊々杵命(にぎのみこと)が、天孫降臨の際日向の国の高千穂の峰までの道案内をした神で、その後伊勢の国の五十鈴川の川上に鎮座したとされる神で、容貌魁偉(ようぼうかいい)で鼻が長く、背丈は七尺余(約二メートル余)もあつたとされ、道祖神と共に道行く人の守護神とされていきましたので、時代と共に道祖神と猿田彦大神は、して同化して行きました。

今、神津島には二十四基の猿田彦大神の文字碑と道祖神の文字碑一基それぞれ道脇に祀られています。その場所は必ず三叉路であり、悪霊を祓う道行く人の守護神であり、かつ三叉路が意味する、生産と豊穰の神として、島の人に大切に祀られて来たものと思われまふ。

地図の上でこの道祖神を結んで行くと、明治以前の頃の島の部落がスッポリとはいってしまふことに気付きます。

そしてこの事は、当時の人たちは悪霊と悪疫に怯えていたことを表しているように思えますが、医師と言う職の不在の島の暮らしと、寄り添うように暮らしている島の人には流行性の病気は命取りであつたように思えます。

また今でも男女共それぞれの厄歳になると、猿田彦大神の碑の前に、お金を落して置き、それを拾う人があれば厄除け成就したと言ひ、以前は櫛を落して置く女性もあつたと聞いています。

またその年

に何も無ければ、猿田彦大神の御利益として改めて、お供え物をしたと聞きました。

今も猿田彦大神の碑の前に一円のアルミ硬貨が数枚、鏽を浮かしているのを見かけますが、私がそれを持ち去ることは出来ませんが、社会福祉協議会とか老人ホーム等で一円玉を五枚でも六枚でも世の中に役立たせることは出来ないものか、「もつたいたい」と考えています。

神津島の猿田彦大神はすべて地元の石で文字碑なので、島で作られたと思われまふが、この頃、群馬県や長野県、神奈川の湘南で、この路傍の道祖神めぐりが、ブームになっていると聞きます。此処は文字碑でなく石像で男神と女神の双体で、女神の懐や裳裾に手を入れている男神の微笑ましい仕草と、素朴な表情に温かいもの、親しいものを感じ

ると言います。旧暦の一月に行われる、「二十五日様」の行事は、闇夜村の中を窠を被った神がお通りになるので、二十四日の夜から、村の人はまだ明るい内から雨戸を閉め、海を見てはいけない、また夜は外へ出てはいけない、大きな声を出してはいけないと子供たちを戒め、早々に寝床入りした子供たちは二日の間、静かに神様のお通りを待ちましたが、子供たちには怖い神様と感じていました。

けれども二十六日の早朝、にわたりの鳴き声を合図に子供たちは外に飛び出し、魔除けの玄関前のいぼじりの「オク」や苗場の「チャンギ」を近所の家のものまで、大声を上げて抜き取り歩きました、それは正月の子供遊び道具になりました。

この「二十五日様」の行事には夜になると、当日神社の宮司と禰宜は、道祖神を祀りながら村を歩きますが、或る人は二十五ヶ所の猿田彦大神を祀りながら歩くのでこの「二十五日様」と符合すると言いますが、宮司や禰宜が祀り歩くのは十一ヶ所で、これは「賽の神」の祀りのように思えます、

道祖神については、島のわらべ歌で

はげや、道陸神

十三夜の、ぼたもちと歌う子供たちと、窠を被せると言う神様とはどうも結びつきません。

古来の道祖神信仰は、「二十五日様」と言う、子供たちに恐怖を与えるようなことは、まず神の意思では無い筈です、何時からこのような祭りになったものか興味を覚えます。◎、参考。

伊豆諸島を所管していた伊豆韮山の江川英勝の代に、祖先の借米の代金返済が滞り、かつ、相模の国の花水橋の工事で、代官手代の収賄が発覚して、代官を罷免されその後伊豆諸島の代官は、以後関東郡代が当分預かりとなり、房総代官の羽倉下記(簡堂)は天保三年から同九年(西暦一八三二年～一八三九年)まで伊豆代官として、島預かりとなりますが、伊豆諸島を巡回した記録の(南汎録)に、当時の島の地役人と鎮守の宮司を兼ねた、松江伊予の話を載せています。

それは正月の二十五日に伊豆諸島の神々を神津島に集めていると、言うとしています、伊予は神津島の神が名神大社で、伊豆の島の神社では社格が高いと言うことを力説したとされていますが、なぜ神津島に島の神々を集めて何をするのが、記載はありません。

この二十五日様と、島の神々の集会を私なりに次のように考えてみました。
先ず神集めですが、八丈島の神は、雨は農業の為に、少し多めに降らせたい、神津島の神は雨が多いとかつを節の仕上がりが悪くなる雨は少なくしたいなど神々の意見交換があり、それが鎮守の神官を通じ、改めて神の託宣として村の人たちに伝えられたと思

います。

そのため島の人たちは今年の神の託宣如何と声を潜め、子供たちには窠を被った神様がお通りになるから大きな声を出すな、また早く寝ろと言いきつい言葉になり、それがエスカレトして怖い神に変化していった、また大人たちも今年はどういう年になるのかと声を潜めている姿が窺えるのですが。



ジユウア 基地の猿田彦



梅田 要造宮並いの猿田彦



宝山寺の猿田彦 同属の地藏



寺山 ははたの猿田彦